

企画展示のご紹介

コガネムシの世界

- 期間：4月22日(土)～5月7日(日) ※4/26(水)は休館
- 会場：こんちゅう館内多目的ホール
- 内容：色彩豊かなカナブンやハナムグリ、長い前脚を持つテナガコガネ、動物の糞に集まる糞虫たち、立派な角のカブトムシなど、コガネムシの仲間は外見や生態が魅力的な種類がたくさんいます。身近な種から遠く離れた海外の種まで、美しくてかっこよくて不思議な「コガネムシの世界」をお楽しみください。生体の展示はもちろん、金属のように輝くプラチナコガネ、世界で一番重い昆虫の1つといわれるゴライアスオオツノハナムグリなど、標本も多数展示予定です。



イベント案内

- 3月 ①第1回むしむし動画コンテスト・第10回むしむし写真コンテスト 優秀作品展：開催中～26日(日)
- ②バックヤードガイド「飼育室ツアー」：4日(土) 13:30～14:30 ※2
- ③虫講座「カブトムシクラブ」：12日(日) 13:30～14:30 ※2
- ④ぱたぱたパタフライ：19日(日)、26日(日) 10:00～11:30・13:00～14:30 ※2
- ⑤森の音楽会：21日(祝・火) 13:30～14:30 ※2
- 4月 ⑥バックヤードガイド「飼育室ツアー」：8日(土) 13:30～14:30 ※2
- ⑦植物公園共催・みどりと虫講座「春の植物と昆虫」：23日(日) 10:30～11:30 ※2
- 5月 ⑧虫講座「コガネムシのはなし」：7日(日) 13:30～14:30 ※2
- ⑨バックヤードガイド「樹木園ツアー」：20日(土) 13:30～14:30 ※2
- ⑩虫さがし「初夏の昆虫」：21日(日) 10:30～11:30 ※2

※1. 様々な事情により、中止・変更などの可能性があります。
 ※2. ①以外は、すべて「事前申し込み制」です。
 ※3. 「事前申し込み制」イベントの募集定員数は、各回とも25名程度。応募多数の場合は抽選となります。
 ※4. 申し込み方法、締切日等の詳細につきましては、こんちゅう館のホームページをご覧ください。

こんちゅう館 News 新シリーズ Vol.12 春号 2023年3月1日

編集/発行 広島市森林公園こんちゅう館

〒732-0036 広島市東区福田町字藤ケ丸 10173 番地
 TEL (082)899-8964 FAX (082)899-8233 HP <http://www.hiro-kon.jp/>

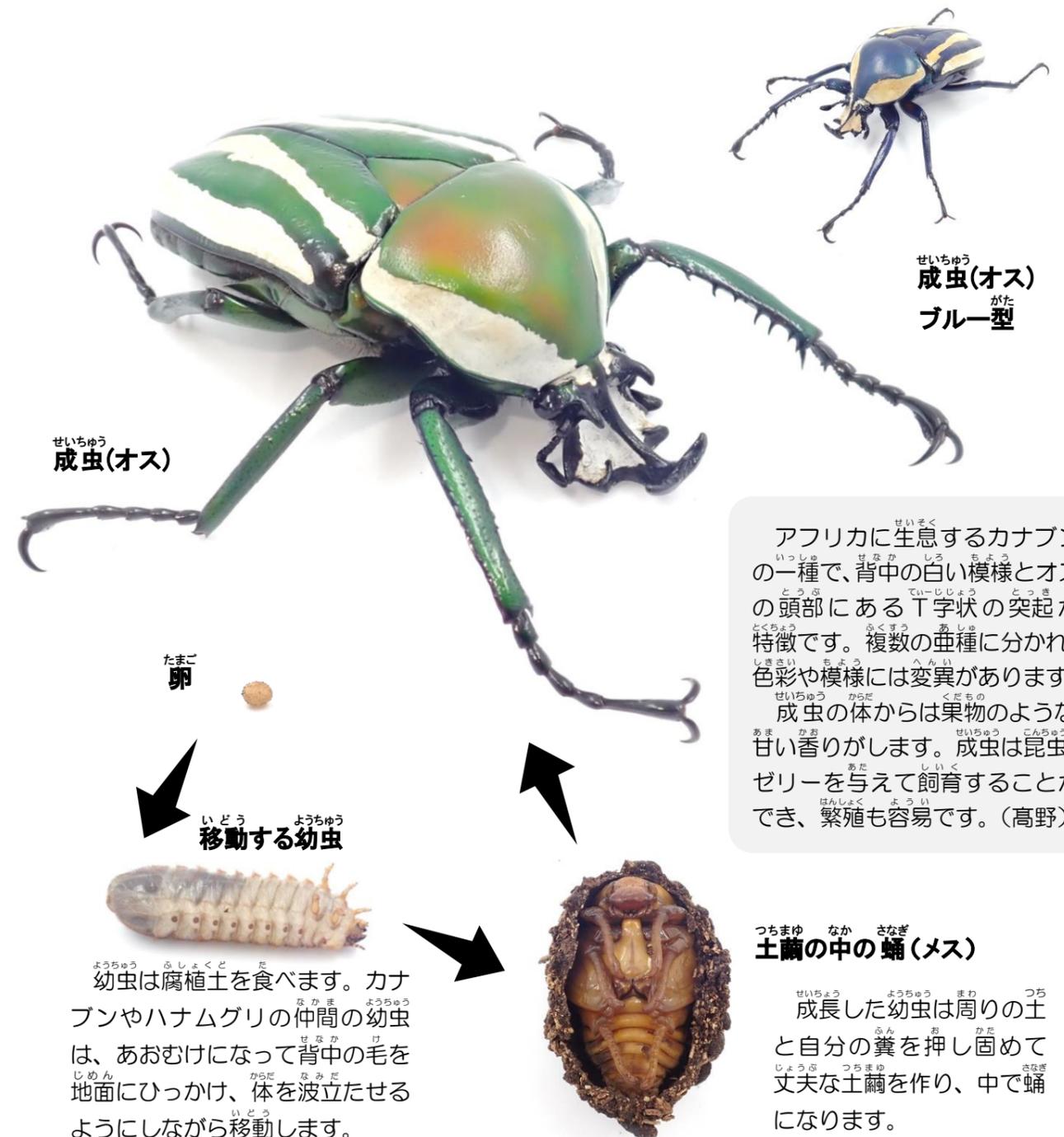
こんちゅう館 News

ひろこん春の企画展「コガネムシの世界」 企画展のスター

シロスジオオツノカナブン

Dicronorhina derbyana

コウチュウ目 コガネムシ科 ハナムグリ亜科



アフリカに生息するカナブンの一種で、背中の白い模様とオスの頭部にあるT字状の突起が特徴です。複数の亜種に分かれ、色彩や模様には変異があります。成虫の体からは果物のような甘い香りがします。成虫は昆虫ゼリーを与えて飼育することができ、繁殖も容易です。(高野)



職員の推し虫

タガメ *Kirkaldyia deyrolli*

カメムシ目 コオイムシ科

こんちゅう館職員の“推し虫”を紹介するコーナー。今回の“推し虫”はタガメです。



オタマジャクシを捕まえた幼虫

卵の世話をするオス成虫



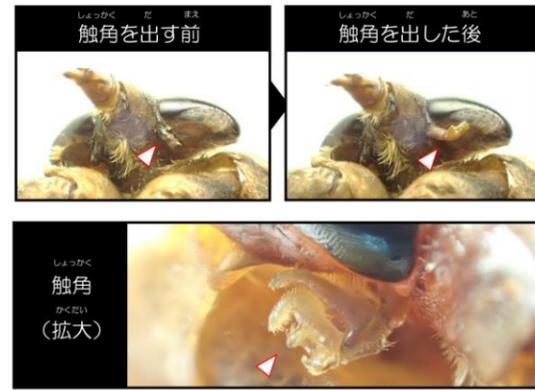
タガメ とは？

“田亀”という名前のとおり、おもに田んぼでくらしている、日本最大の水生昆虫です。自分の体よりも大きな魚やヘビまでも食べてしまう、恐ろしいハンターです。

田んぼの減少や農薬などが原因で、日本各地でタガメの数が減っています。広島県では絶滅危惧I類に選定されていて、野外で見かけることはほとんどありません。(久我)

お推し① 隠れた触角

タガメの触角は、通常見えません。タガメをひっくり返して頭部をじっくり探すと、複眼の下の溝に隠れた触角が見つかります。溝からひっぱり出された触角は、まるで手のような形をしています。



お推し② 複雑な口

タガメは捕まえた獲物に針のような口を刺し、消化液を流しこみます。そして、獲物の体内をどろどろに溶かして吸います。

この口は4つのパーツでできています。



消化液や溶かした獲物は、左右の小あごのすき間を通して、体内に運ばれます。

チョウの小話 ② ~スプリングエフェメラル~



ミヤマセセリ(オス)

スマリで吸蜜するギフチョウ(オス)

コツバメ(オス)

『スプリングエフェメラル』とは「春のはかない命」という意味で、昆虫では春先だけ成虫が出現する種をそう呼ぶことがあります。チョウでは特にギフチョウが有名で、『春の妖精』とも例えられます。広島市では、ギフチョウの他にもミヤマセセリ、コツバメなどの『スプリングエフェメラル』を見ることができます。

森林公園内では、かつてギフチョウを見ることができましたが、現在では全く見られなくなりました。植生の遷移(移り変わり)やシカによる食草の食害が、原因だと考えられています。広島市ではほとんど見かけることはないですが、もし見かけたら優しく見守ってあげてくださいね。(佐藤)

こんちゅう館フォトギャラリー ② 南西諸島の調査で見かけた昆虫



イワサキクサゼミ(オス)

◀ イワサキクサゼミ
Mogannia minuta
セミ科

南西諸島に生息する日本最小のセミです。また、日本で最も早くから鳴き始めるセミで、3月から鳴き始めます。サトウキビ畑など草むらでチー、チー・・・と体の大きさに似合わないような大きな声で鳴きます。

マダラコオロギ ▶
Cardiodactylus guttulus
マツムシ科

名前にコオロギとありますが、マツムシの仲間です。秋に成虫が発生するので、秋の調査では沢山の個体を観察できました。主に夜間ジツ、ジツ・・・と目線位の高さの葉の上で鳴きます。夜行性ですが、薄暗い林道では昼間でも見かけることがあります。



マダラコオロギ(メス)